

「本は人生の疑似体験」

理科 渡辺 達也

私は高校時代まであまり本を読む習慣がなく、「本を読みなさい」「読んでおいたほうがいいよ」と言われてもなかなかその言葉が響きませんでした。おそらくみなさんの中にも本を読むことが苦手な生徒はいるでしょう。そんな私でも、今では2ヶ月に1回「本を買う日」をつくるようにしています。本屋に並んでいる本をいろいろと眺め、そして読んでみたいと思った本を数冊一気に買う。ときどき読み始めてから「あ、これは違ったなあ」と感じることはありますが。

ではなぜ苦手な本を読むようになったのか。それは高校時代の先生のある言葉があったからです。

「人生は一度きり。でも本を読むことで人の人生を疑似体験できる。」その先生は人の人生から学ぶために本を読んでいると教えてくれました。当時は科学者に憧れていた私は、科学者を疑似体験してみたいと思い、「探偵ガリレオ」という本を手に取りました。天才科学者と称される大学教授 湯川学が、警察の捜査に協力して、不可解な事件を科学によって解決していく作品です。ありえないと思うような出来事に対して、「ありえないなんてことはありえない」「実におもしろい」と言って捜査・研究を始める。高校生の未熟な私は、この言葉に心をくすぐられました。

私はその先生やこの本と出会うことがなければ、きっと理科に興味を持たなかったと思います。もちろん周りの人から見れば「それぐらいのこと」かもしれない。ぜひ自分の興味をもった本を手にとって、1ページ、2ページとめくってみてください。きっとその体験がどこかで生かされる日が来るはずです。

私の読んだおすすめの本を2冊紹介します。1冊目は、高校生におすすめの「生物はなぜ死ぬのか」です。これは数年前に人気になった本です。ヒトは「死」に対して恐れが非常に強いです。生物の中で同情したり共感したりする感情をもつのは、霊長類や大型哺乳類、鳥の一部であり、その中でもヒトのそれは他の生物より抜きん出て強いそうです。これがヒトの優しさです。生物全般で見ると、「死」は進化し、変化するためであると筆者は考えます。いくつもの生物の「死」によって、私たちの「生」がある。そう考えると私たちの生命は、自分たちだけのものではないと思える気がします。



2冊目は、中学生におすすめの「あ、命の授業」です。この本はゴルゴ松本という芸人が漢字の由来や形から、人生について教えてくれる本です。テレビ番組の中で、ゴルゴ松本さんが少年院を訪問し、授業をしていたのを見てこの本を買いました。言葉一つ一つには魂がこもっている。言葉を使える人間だからこそ、向き合うべき内容だと思います。ぜひ手に取ってみてほしいですね。

この話を聞いて、少しでも本を読む人が増えたらいいなと思っています。

※（紹介していただいた本、2冊とも図書館にありますよ。ぜひ・・・）



第69回読書感想文課題図書



- ・『スクラッチ』 歌代のり (著)
- ・『アップステージ』 ダイアナ・アシャー【著】
- ・『人がつくった川・荒川』千長谷川敦【著】
《中学校 (前期課程)》

- ・『ラブカは静かに弓を持つ』 案壇美緒【著】
- ・『タガヤセ! 日本』 白石優生【著】
- ・『昆虫の惑星』 アンヌ・ディーゲソン【著】
《高等学校 (後期課程)》

(上記の課題図書は、7月中旬に入る予定です。)

～新刊紹介～

- 『裁判官の爆笑お言葉集』 長嶺超輝【著】
- 『戦物語』 西尾維新【著】
- 『物語の種』 有川ひろ【著】
- 『正々堂々私が好きな私でいいんだ』 西村宏堂【著】
- 『やさしさを忘れぬうちに』 川口俊和【著】
- 『運命を拓く』 中村天風【著】
- 『小さなプロ野球選手の履歴書』 ヤクイク編集部【編】
- 『コメンテーター』 奥田英朗【著】
- 『レモンと殺人鬼』 くわがきあゆ【著】
- 『怪物 (映画ノベライズ)』 坂元裕二【著】
- 『神のお告げは樹の下で』 青山美智子【著】
- 『ぼんぼん彩色句』 宮部みゆき【著】
- 『白銀の逃亡者』 知念実希人【著】
- 『私が先生を殺した』 桜井美奈【著】
- 『教科書に出てくる美術・建築物語』 1～5巻 目黒哲也【編】
- 『ヒーロー&ヒロインに会おう! 古典をたのしむきっかけ図鑑』 1～3巻 齋藤孝【編】
- 『名作マンガ100でわかる! ここがすごいよ! ニッポンの文化図鑑』 1～5巻
ニッポンの文化大図鑑編集委員会【編】
- 『調べてみよう! 日本の職人伝統の技』 1～7巻 学研プラス【編】
- 『マンガ年表歴史を変えた100人の人生』 上・下 目黒哲也【編】

(●は、既に入っています。これらを手にとって、日本の伝統文化に触れてみませんか?)